

タイトスカートの丈の違いによる下体部の印象評価

布施谷節子

Sensory effective evaluation of the lower body putting on the tight-skirt with different length

Setsuko FUSEYA

The author investigated the impression of the subjects dressed in tight skirts. One of the aims of the wearing test was to select the length of tight skirts which seemed to be the most deceptively slender or the fittest to each subject. Black and white tight skirts were used in the test. Four female students who had different physical types put on the tight skirts made in five different length alternately and they were taken five photographs in a front view. Fifty one female students selected the most suitable length among five photographs in each subject. Main results were as follows;

- (1) The fitting length of tight skirt was different in each subject.
- (2) The knee length of tight skirt gained good evaluations without regard for physical types.
- (3) The ankle length was suitable for a plump subject, the calf length was suitable for a chubby subject and the upper knee length for a slender subject.
- (4) The results of this investigation will be useful in dressing education

キーワード：着用実験 (wearing test)、スカート丈 (skirt length)、体型 (physical type)、下体部 (lower body)、印象評価 (sensory effective evaluation)

1. はじめに

近年、若い女性は、脚が細く長いこと、お尻が小さいことを美しいと考え、自身の下体部を気にかけ、自信をなくしているように思われる¹⁻³⁾。筆者は、先に、ジーンズ着用による下体部の印象評価を行い、体型別・ジーンズのタイプ別に似合う丈や股上の深さを検討した⁴⁾。今回は、スカートを研究対象として、同様の印象評価を行おうとしたものである。

近年では、スカート丈が流行によってミニやロング一辺倒になるようなことはなくなって

きた。それだけに、着用者は自分の体型を考慮しつつ、好みと流行にあわせたスカート丈を適切に選択することが大切になってきたといえよう。女子大生の通学着は、通常はパンツスタイルがほとんどであるが、就職活動ではタイトスカートを着用する。しかし、きれいにタイトスカートをはきこなしている学生は少ないように見受けられる。中高年の女性では、最近ロングスカートを着用する人を多く見かけるが、体型的には似合っていないのではないかとと思われることがしばしばある。そこで、タイトスカートに焦点を当て、体型別の下体部が美しく見え、かつ、着用者に適合するような丈や色の設定はいかなるものであろうかを明らかにしようと試みた。

2. 資料および研究方法

被験者は体型が異なる女子大生4名である。身体計測所見を表1に示す。A、BとC、Dはそれぞれ身長がほぼ等しいものの太さが異なる。Aは身長が高くやや太め、Bは身長が高く痩せ型、Cは身長がやや低く太め、Dは身長がやや低く痩せ型である。

着用実験に用いたタイトスカートは、黒と白の2種類であり(黒;綾織、綿100%、厚さ0.50mm、タテ61本×ヨコ34本/1cm、白;綾織、綿100%、厚さ0.39mm、タテ43本×ヨコ22本/1cm)、各人の身体寸法に合わせて製作したものである。スカート丈は膝蓋骨中心を基準として、膝上10cm、膝の中央、膝下10cm、下腿最大囲の位置、外果中央の5条件で、それぞれを膝上10cm丈、膝丈、膝下10cm丈、ふくらはぎ丈、踝丈と称す。異なった丈のスカートを着用した被験者を写真撮影し、写真を印象評価のための資料とした。写真撮影は正面、側面、背面の3方向から撮影したが、予備実験の結果、正面の写真が最も評価しやすいことが明らかとなったため、色と丈の組み合わせで一被験者当たり10枚の写真を評価の資料とした。カメラのレンズの高さは、被験者のウエストラインの高さとした。なお、上衣はグレーのT

シャツとして、各被験者のヒップラインに合わせて裾上げをした。図1は被験者Dの5つの丈の着装を示す。また、図2は、黒の膝丈の場合で体型の異なる4人の被験者の着装を示す。

得られた写真資料を、被験者別、スカートの色別にグレーの台紙に5つの丈を一括して貼り、面接法により7項目の評価を行った。評価項目は、スカートと脚のバランスが最も

表1 被験者の身体計測値 (cm)

	A	B	C	D
胴 囲	79.5	67.4	73.8	64.5
腰 囲	100.5	90.3	91.5	91
胸 囲	96	80.5	93	83.5
W.L~外果	102.5	100	93.6	92
腰 丈	26	22	20.3	19.5
身 長	164	164	156	156

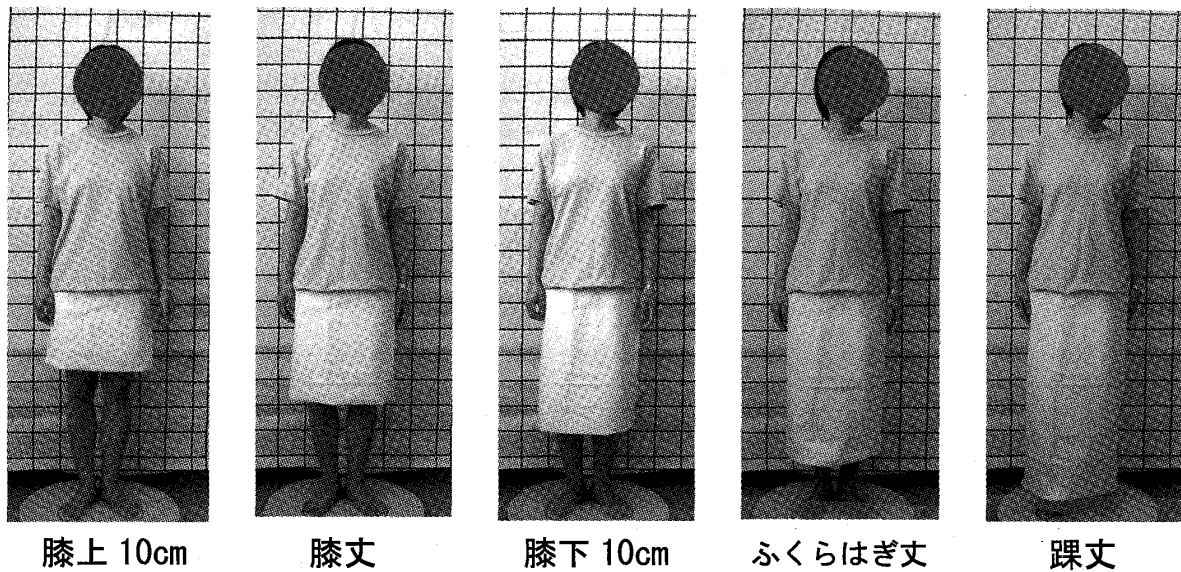


図1 被験者Dの丈別評価用写真（白）

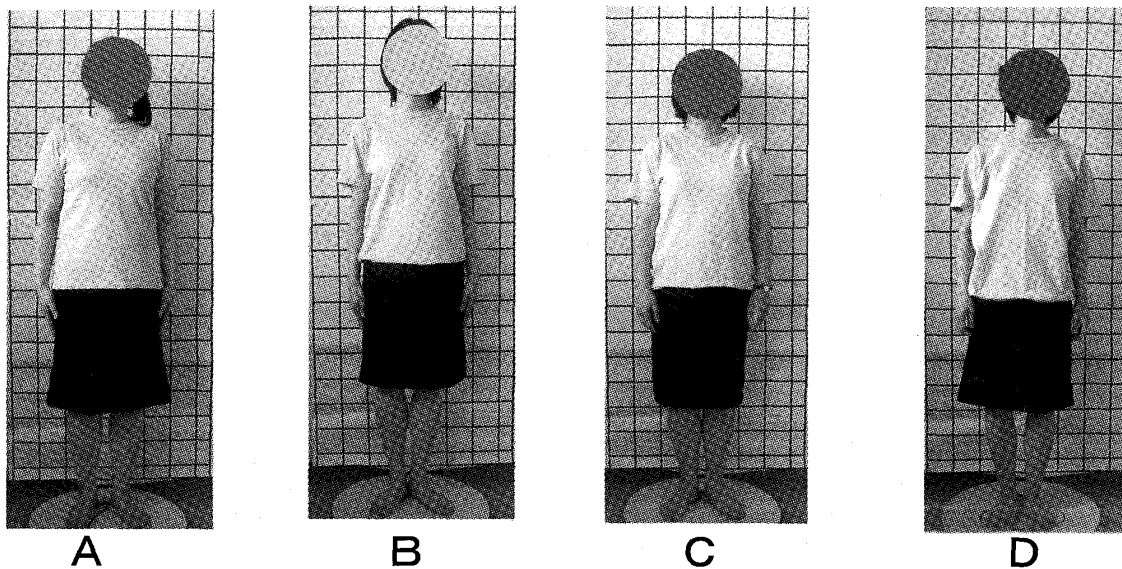


図2 体型別評価用写真（黒・膝丈）

良い丈、スカートと脚のバランスが最も悪い丈、下体部が最も太く見える丈、下体部が最も細く見える丈、脚が最も長く見える丈、脚が最も短く見える丈、総合的に最もよく見える丈の7項目である。評価の手順は、色別に評価した後に、各評価項目で選ばれた丈を白・黒ともに抜き出し、2色を対にして、どちらの色がより評価項目に該当するかを選ぶという手順とした。評価者は51名の本学女子大生である。

評価項目以外に、女子大生には自分の体型についての意識とスカートの着用状況の6項目について併せて調査した。調査の時期は2005年年9月末から10月中旬である。解析方法は、

単純集計、クロス集計、因子分析による。

3. 結果および考察

(1) 体型意識とスカートの着用状況

図3は、女子大生の脚の長さの自己評価を、図4は脚の太さの自己評価の結果を示す。脚の長さは70%、脚の太さは80%の学生がそれぞれ、短いまたは太いと評価し、自己の脚に自信を持っていないことがわかる。従って、図5に示すように下半身の太さを90%の学生が気にしていることが明らかになった。筆者らがかつて、体型評価を行った研究では、自己の体型の如何によらず、若い女性は他者の体型評価には厳しいことが明らかにされている²⁾ことから考えても、今回、このように自己評価をする学生が、他者が着用したスカート丈の評価をするということには、興味を持ち、真剣に取り組んだものと推測される。

(2) 体型別・丈別のスカート着装の印象評価

1) 因子分析の結果

解析の最初に、評価に関わる要因を明らかにするために、評価項目中のよいと評価する項目について、黒白を併せて因子分析を行った。その結果、表2に因子負荷量で示すように、固有値1以上の6つの因子が抽出された。これによると、第1因子は痩せ型の人々の脚長効果を表し、第2因子は小太り型の着やせ効果を、第3因子は背の低い人の白スカートのバランス効果を、第4因子は痩せ型の黒の着やせと丈のバランス効果を、第5、第6因子は大柄の人々の効果をそれぞれ示していると考えられる。この結果から、被験者別すなわち体型別に評

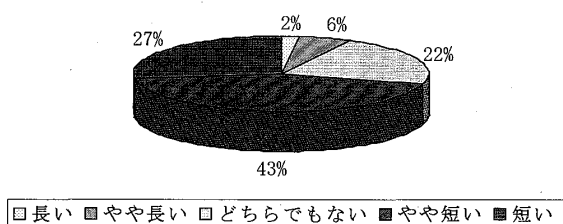


図3 脚の長さの自己評価

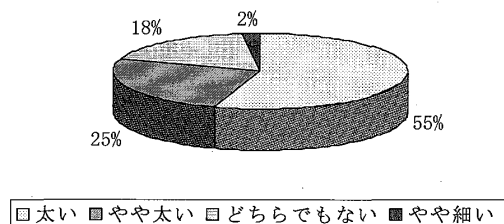


図4 脚の太さの自己評価

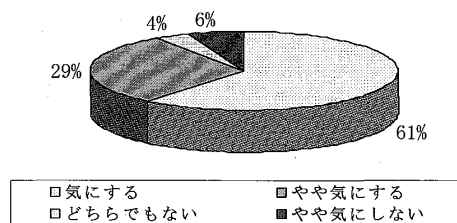


図5 下半身の太さを気にするか否か

表2 「よい」と評価される項目の因子分析結果（因子負荷量）

	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子	第6因子
B-黒 脚長にみえる	-0.905	-0.040	0.129	0.204	0.191	-0.001
D-白 脚長に見える	-0.764	-0.171	-0.372	0.069	-0.126	0.018
B-白 脚長にみえる	-0.742	0.205	-0.126	-0.032	0.156	-0.219
D-黒 脚長に見える	-0.625	-0.004	-0.026	-0.145	0.060	-0.068
C-白 下半身細く見える	-0.068	0.870	0.104	0.095	0.140	0.033
C-黒 下半身細く見える	-0.144	0.768	-0.075	0.158	0.104	-0.163
C-白 バランスがよい	-0.060	0.596	-0.246	0.192	0.017	-0.107
D-白 バランスがよい	-0.075	0.010	-0.778	0.100	-0.030	-0.132
C-白 脚が長く見える	-0.256	0.188	-0.567	-0.030	0.359	-0.047
D-黒 下半身細く見える	-0.115	0.286	0.124	0.680	-0.155	0.080
B-黒 バランスがよい	-0.081	-0.180	-0.212	0.667	-0.047	-0.519
A-黒 脚長に見える	-0.055	0.092	0.059	0.007	0.697	-0.033
A-白 脚長に見える	-0.151	0.178	-0.283	-0.084	0.384	0.091
A-黒 バランスがよい	-0.059	0.150	-0.008	0.069	-0.062	-0.672
A-白 バランスがよい	-0.028	0.142	-0.092	0.069	-0.037	-0.135
固有値	4.99	2.34	1.84	1.57	1.05	1.00
累積寄与率 (%)	20.8	30.5	38.2	44.8	49.2	53.4

価が分かれることがわかった。B、Dの痩せ型の被験者と、Aの大柄の被験者と、Cの小太りの被験者はそれぞれ異なった評価の様相を示すのではないかと、ここでは予測された。なお、因子分析は悪い評価についても行ったが、ほぼ同様に因子は体型別に抽出された。

2) 体型別・色別のよい評価のスカート丈

★黒のタイトスカートの場合

図6は、体型別（被験者別）に黒・白スカートのよい評価項目で1、2位となったスカート丈を一括して示したものである。黒スカートの場合、スカートと脚のバランスがよい評価はいずれの被験者も1位は膝丈であった。学生が就職ガイダンスで着装指導を受け着用するタイトスカート丈が膝丈であることが影響していることも考えられる。下体部が細く長く見える丈は、背が高く太った被験者（A）では踝丈、背が高く細い被験者（B）では膝上10cm丈、背が低く太い被験者（C）ではふくらはぎ丈であった。背が低く細い被験者（D）では膝丈又は膝上10cm丈であった。太めの被験者は長めのスカートが、細めの被験者は短かめのスカートが着やせ効果があると評価されたようである。脚が長く見える丈は、各被験者とも1位と2位が全く逆の評価であることが注目される。すなわち、太め体型のAとCでは、1

被験者		A		B		C		D	
評価項目	色	1位	2位	1位	2位	1位	2位	1位	2位
スカートと脚のバランスがよい	黒								
	白								
下半身が細く見える	黒								
	白								
脚が長く見える	黒								
	白								

黒

膝上 10cm 丈	
膝丈	
膝下 10cm 丈	
脛脛丈	
踝丈	

白

膝上 10cm 丈	
膝丈	
膝下 10cm 丈	
脛脛丈	
踝丈	

図6 体型別スカートの色別により評価を得たスカート丈

位は下体部が細く見える評価と同じ長めの丈であるが、2位は膝上丈の短いスカートである。評価者は脚長効果のためには中途半端な丈ではなく、長いかわかりやすいか短いかわかりやすいか両極端を選ぶ傾向があるように見受けられる。細め体型のBとDは膝上丈の短いスカートが1位であり、2位は踝丈の長いスカートが評価された。

★白のタイトスカートの場合

白スカートの場合も、スカートと脚のバランスがよい評価はいずれの被験者も1位は膝丈であった。下体部が細く見える丈は1位でみると、細い被験者（B、D）は膝上10cm丈、太い被験者（A、C）は、ふくらはぎ丈であり、着やせ効果があるようである。脚が長く見える丈は、Aは1位が踝丈、2位が膝上丈であるが、他の3人は、これと全く逆順位であった。

3) 体型別・色別の悪い評価のスカート丈

悪い評価の結果については図7に示す。黒・白ともに悪い評価は似通っている。スカートと脚のバランスが悪いのは、1位2位を併せてみると、踝丈が最も多く、膝下10cm丈、ふくらはぎ丈が続く。下体部が太く見える評価では、膝下10cm丈が最も多く、次いでふくらはぎ丈である。ただし大柄な被験者Aは、黒・白いずれも膝上10cm丈の短いスカートの評価が最

被験者		A		B		C		D	
評価項目	色	1 位	2 位	1 位	2 位	1 位	2 位	1 位	2 位
スカートと脚のバランスが悪い	黒								
	白								
下半身が太く見える	黒								
	白								
脚が短く見える	黒								
	白								

黒

膝上 10cm 丈	
膝丈	
膝下 10cm 丈	
脛脛丈	
踝丈	

白

膝上 10cm 丈	
膝丈	
膝下 10cm 丈	
脛脛丈	
踝丈	

図7 体型別スカートの色別に悪い評価を得たスカート丈

も悪かった。脚が短く見える丈は、どの被験者も、黒白いずれも、膝下10cm丈、ふくらはぎ丈であった。

4) 体型別に適合するスカート丈

評価実験の最終段階では、各評価者が、各評価項目で、色別に、選んだ丈を取り出し、1対比較で黒白のどちらがより評価項目に合致するかを判断してもらった。その結果を図8に示す。今回の実験からいえることは、次のようである。すなわち、大柄の被験者（A）はバランスを考えるならば、黒の膝丈、着やせ・足長効果を期待するならば、黒の踝丈がよいだろう。背が高く痩せ型（B）の被験者はバランスでは黒の膝丈、着やせ、脚長効果は白の膝上10cm丈がよいだろう。小太り（C）の被験者は、バランスでは黒の膝丈、着やせ、脚長効果では黒のふくらはぎ丈がよいだろう。やや小柄で痩せ型（D）の被験者は、いずれにしても白の膝上10cm丈がよいだろう。

黒と白の1対比較で見ると、被験者Dのバランスを除き、評価が悪かったのはほとんど白であった。評価する学生にとって、薄い色のスカートをはくことはあっても、真っ白のタイ

被験者		A		B		C		D	
評価項目	評価	1位	2位	1位	2位	1位	2位	1位	2位
スカートと脚の バランス	よい								
	悪い								
下半身の細い太い	細い								
	太い								
脚の長い短い	長い								
	短い								

黒

膝上 10cm 丈	
膝丈	
膝下 10cm 丈	
脛脛丈	
踝丈	

白

膝上 10cm 丈	
膝丈	
膝下 10cm 丈	
脛脛丈	
踝丈	

図8 体型別に適合するスカート丈

トスカートは日頃あまりはき慣れたものではないこと、黒と比較して白のもつ膨張効果が敬遠されたものとも考えられる。

4. ま と め

体型の違いによって、タイトスカートの丈がバランスの良さや着やせ効果、脚長効果にどのような影響を及ぼすものであろうかを検証するために、着用実験並びに着装評価実験を行った。被験者は体型の異なる本学女子大生4名、評価者は本学女子大生51名であり、評価のための資料は、被験者のスカート丈別装着写真である。スカートの色は黒と白の2色とした。主な結果は以下の通りである。

- 1) 下半身の痩せ・太り効果、脚の長短の効果については、黒白のスカートともに、体型によって、適・不適の丈は異なることが明らかになった。
- 2) バランスのよい評価は体型に関わらず、膝丈が多かった。

- 3) 下半身が細く見える、脚が長く見える評価は、背が高く太い人は踝丈、背が低く太めの人にはふくらはぎ丈、痩せた人は膝上丈が多かった。
- 4) 評価項目ごとに選択された丈を、黒と白で比較すると、よく評価されたものは、ほとんどが黒であった。ただし、やや小柄で痩せた人には白の膝上丈が評価された。
- 5) 今回の結果は、流行にとられるばかりでなく、自らの体型を考慮した衣服選択が重要であることとして、着装指導の中に生かしていきたい。
- 6) 今後の課題は、上衣丈を変化させ、スカート丈とのバランスで、体型ごとの適合評価を行うこと、また、スカートのタイプをフレアー、ギャザーなどに広げていくことである。

5. 引用文献

- 1) 布施谷節子・高部啓子・有馬澄子：「女子短大生のからだつきに対する意識とそれを形成する要因」、日本家政学会誌、49、1037-1044（1998年）
- 2) 高部啓子・布施谷節子・有馬澄子：「女子短大生の他者のからだつきに対する評価」、日本家政学会誌、49、1021-1026（1998年）
- 3) 岡田宣子：「からだつきの意識と衣生活行動」、衣生活、36、10-15（1993年）
- 4) 布施谷節子：「ジーンズに関する若い女性の意識と着装評価—体型と着装効果の関連性を中心に—」和洋女子大学紀要（家政学編）、45、83-96（2005年）

布施谷 節子（家政学部生活環境学科助教授）